

松嶋夜話 卷之下 71

〔原文〕上廳有文王之間

〔訓読〕上廳に文王の間有り

〔原文〕長谷川等胤繪之

〔訓読〕長谷川等胤之を繪く

※瑞巖寺の160面にも及ぶ障壁画は、三つの流派の絵師たちによって描かれている。仙台城の大広間を一手に引き受けていた狩野派の狩野左京が、瑞巖寺のリーダーとしてたずさわったが、長谷川等伯の高弟で深い知識を持つ長谷川等胤を政宗自身が招き、さらに水墨画の吉備幸益を加え、12室の襖絵を描き分けさせた。黄金に輝く狩野派、人物画を得意とした長谷川派、墨絵の雪村派、それぞれの桃山後期の最高の芸術が、政宗の夢を伝えて現代に光る。

〔原文〕中廳之正中鎮護開基中納言政宗甲冑之像

〔訓読〕中廳の正中に開基の中納言政宗の甲冑の像を鎮護す

〔原文〕此樣態曰昔年朝鮮陳撓先裝束也

〔訓読〕此の樣態、昔年朝鮮の陳撓先の裝束と曰ふなり

※陳撓先…人名？

〔原文〕尋立歷代神主序昭穆矣

〔訓読〕尋て歷代の神主を立て、昭穆を序ぐ

〔原文〕狩野左京繪之

〔訓読〕狩野左京之を繪く

〔原文〕有鷹間菊間櫻間

〔訓読〕鷹間、菊間、櫻間有り

〔原文〕左京師弟画之

〔訓読〕左京の師弟之を画く

〔原文〕中廳奥有墨繪間

〔訓読〕中廳の奥に黒繪の間有り

〔原文〕吉備幸益画之

〔訓読〕吉備幸益、之を画す

〔原文〕寒山拾得仙人龍虎等皆寫雪舟之風體者也

〔訓読〕寒山取得の仙人、龍虎等、皆雪舟の風體を寫する者なり

〔原文〕知丹青者來而驚心目矣

〔訓読〕丹青を知る者が來りて心目を驚かす

※丹青：朝鮮半島の伝統的な木造建築や工芸品に描かれる彩画のことを指す。

〔原文〕蓋幸益雪舟系胤也

〔訓読〕蓋し幸益は雪舟の系胤なり

※雲谷等益：1591―1644 江戸時代前期の画家。天正17年生まれ。雲谷等顔の次男。父と

もに安芸から長門萩にうつり、毛利家につかえる。兄等屋の早世後、元和4年跡目を

つぎ雲谷派の維持につとめる。雪舟4代を称した。寛永21年2月14日死去。54

歳。名は元直。別号に友雲。作品に「樓閣山水図屏風」など。

〔原文〕若乃相幫画工日次費一百口云云

〔訓読〕若し乃ち相幫の画工、日次に一口を費やすと云云

〔原文〕從元和六年至于八年画功漸了

〔訓読〕元和六年より八年に至りて、画功漸く了わる